

8 -2 空港ではどんな職業の人が働いているのかな？

空港で働く人たち2

空港では安全・確実に飛行機を運航するために、様々な職員がそれぞれ専門的な仕事を行っています。実際に働く職員の仕事内容や、やりがいをご紹介します。



航空管制運航情報官

空港を360度見渡せる管制塔で、滑走路の状態や風向きなどの気象情報、他の航空機の飛行状況など、航空機が安全に飛行するために必要な様々な情報を集めてパイロットや航空会社に情報提供する仕事です。その他にパイロットなどが作成したフライトプランを審査したり、空港の状況や気象状況を発信するシステムを保守管理したりして、航空機の安全な飛行を支援しています。

この仕事に就くには？

高校を卒業して、航空保安大学の航空情報科に入学し2年間実技と学科を学びます。航空保安大学に入学した時点で国土交通省に採用され、国家公務員として訓練を積みます。卒業後、全国の空港に配置され、必要な経験を積んで運航情報官の仕事につきます。

やりがい

パイロットや航空会社から「ありがとう」と言われた時。自分の提供した情報やアドバイスが、安全な運航に少しでも役に立ったと思うと同時に、提供する情報の責任の重さを実感します。



航空気象解説官

航空機は大気中を飛行することから、常に気象の影響を受けます。このため、航空機の安全かつ経済的な運航を支援するため、航空管制運航情報官やパイロットなど航空関係者に対して、航空気象観測や航空気象解説などの気象情報を提供しています。

※富士山静岡空港では、平成26年4月から航空気象観測業務は気象庁が委託した事業者が一部を担当し、航空気象解説業務は羽田空港にある東京航空地方気象台が遠隔で行う予定です。

この仕事に就くには？

国家公務員試験や気象大学の学生採用試験に合格して気象庁職員となり、気象大学校等で気象業務に従事するために必要な教育や訓練を受けた後、赴任した空港で航空気象観測等の経験を積んで航空気象解説官になります。

やりがい

航空関係者などに対し観測した気象情報や予報などの気象解説を伝えることによって、安全で快適なフライトに貢献できることです。



Q.空港の仕事を見学する機会がありますか？

A.富士山静岡空港では、9月20日の「空の日」等に合わせて空港の仕事を見学できるイベントを行っています。航空管制運航情報官が勤務する管制塔や麻薬探知犬が働く税関の見学、化学消防車やグランドハンドリング用車両への試乗、パイロットや客室乗務員等から仕事の様子を聞くなど、内容は様々です。人気のイベントなので、興味のある人は富士山静岡空港のホームページなどで情報をチェックしよう！



税関職員

全国各地の港や空港で、海外から日本に輸出入されるモノの出入りをチェックする仕事です。日本の法律で輸入することができないモノ（覚せい剤、大麻等の不正薬物や拳銃、ブランド品のコピー商品、絶滅危機に瀕した野生動植物など）が密輸入されないように取り締まりを行ったり、海外から日本に輸入される貨物に対して、書類の審査や貨物の検査をし、関税や消費税を徴収したりしています。

この仕事に就くには？

税関職員になるためには国家公務員試験に合格しなければなりません。国家公務員試験には年齢や学歴に応じて「高卒者試験」と「大卒者試験」があり、どちらも筆記試験と面接試験が行われます。合格後、税関で実施される面接試験に合格すると晴れて税関職員になります。税関業務が外国貿易と密接に関係していることから、英語を中心とした語学力を習得しておくことで業務に活かすことができます。

やりがい

取締業務については、国民の健康や安全を守っていること。また外国製品は全てが税関で通関された品物であり、貿易の最先端で働いていることを実感できやりがいを感じます。



入国審査官

空港に着いた外国人は入国審査官に対して入国目的や滞在期間を申告して上陸（入国）許可の申請をします。入国審査官は指紋と顔写真の個人識別情報の提供を受けて、パスポート、ビザ、申請内容を確認し上陸（入国）を認めてよいと審査します。

この仕事に就くには？

入国審査官は法務省入国管理局の職員で身分は国家公務員ですので、国家公務員試験に合格する必要があります。入国審査官になった際は外国語の会話能力を身に着けたり、入管法や国際法などの法律、日本が締結している国際条約について理解を深めたりすることが、仕事に大いに役立ちます。

やりがい

世界と日本を結ぶという大変重要で責任のある出入国管理業務を通じて、日本の安全と国民生活の安定、経済・文化・社会の発展の一翼を担っていることです。